教草女房形氣

山東京山著

巻十 十二

へ13
3580
12

門へ13
3580
巻12

文榮堂發兌文房書目

考槃餘事　明屋弓木著　東溪源讓校　白紙摺明朝綴　帙入全部四冊

題畫詩選　岡崎廬門著　全仕立全一冊

書畫皆宜　笑凝氏撰輯　白紙摺明朝綴　帙入全部二冊

題畫詩補　森川竹窓著　全仕立全一冊

書舗　浪華心齋橋筋北詰五街　前川源七郎

大学図書館　購入　35.1.22　書庫

今より百年あまりのむかし御伽草紙とて小繪を井筒のもとみ髪くしけるうるわしき兒のるぐさあり艸みあるしる物あり
の繪巻をつくり梓みまる物とあとれあん今の艸さしの根ざしあり此根ぢし今はむかしの世ふとびとうてんの葛ぬえ
ま若草のめづらしうるぞ多ありける中ふ土筆の筆ぬしかかたちえふ妬婦の身を書綴りしの玉ぞとの道のまなびあ
ものとうしんぢまど
ちはら毛現の海の淺ゐれバうるかひあるかぬ水ふるの海

嘉永四亥年二月稿成同五子春　八十四歳　山東菴京山

上梓

万左エ門叔母賢女なる事
万左エ門
叔母
お夏
万左エ門妾孝心なるふるうて幸福をうる事
万左エ門
妾小糸
徳若屋
万左エ門
万左エ門養父の恩を知ふ事
一子
万太郎

万左エ門下女同人の弟悪行の支
おひよの
万左エ門の下女おひよの弟權吉
万左エ門妻積悪身ホ報ふ支
妻の婦をあへを
万左エ門
一朋
轉嶺
の獺
一首熊
右エ門

教草女房形氣十二編
初段
二代目岡村かく四郎
妻おちよ

二段

小あらうとな
万太郎
万太郎
つま小ひと
万太郎

万太郎
ちゃのよ

万ぢよう

女房

四度

中ぞうが
たんこ家
かん秀
せうこく
絵あり

九月
万ざえもん
ふのと

十月
だんぞう
忠兵衛

京山老人作
國政改代
國貞画

女房形気十二編下

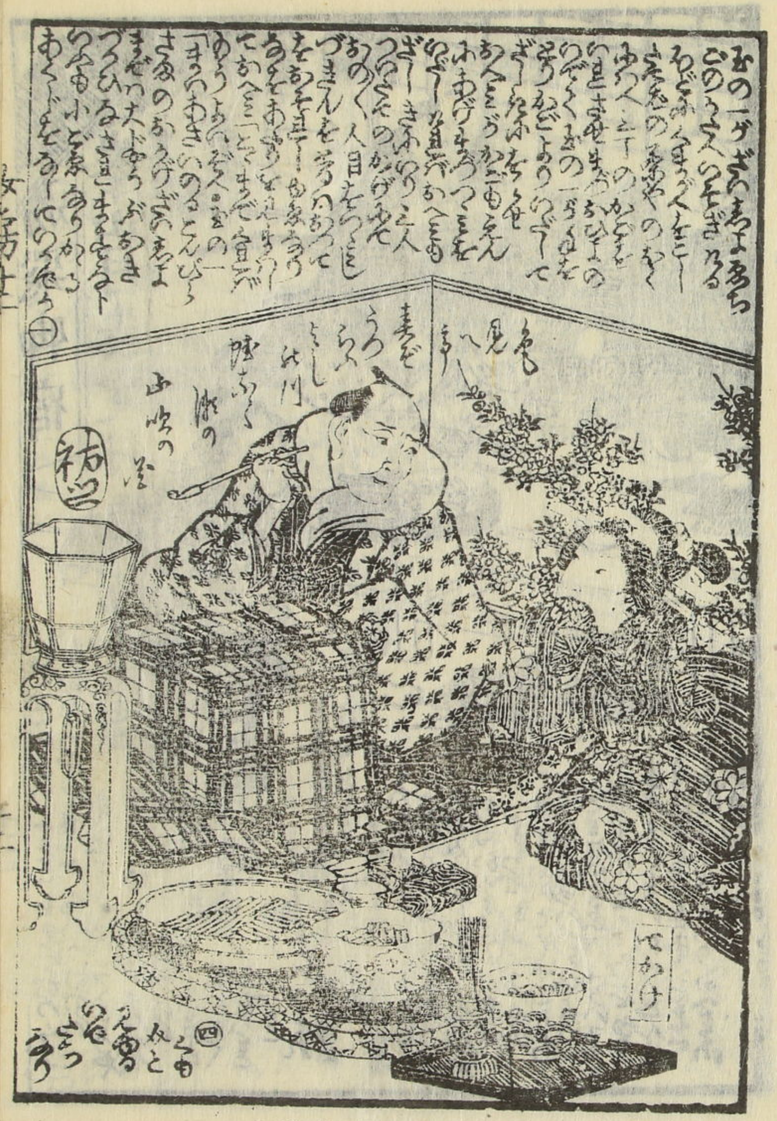
▼あけがたのりびのうとものあまよりもひらくうまの日なり

▲十三味むくひ粉まの赤ちふん
水昆布一袋百二十二せんだつち
ちろを白くーー一袋つくばいうれ
みのごとーーいろどのわまとまやう
ゆたものーろいろくのうりかわれ
つやたなたをひらけ合なり
●あたび●をむまの●ひ●ちの
ゆみ●ゆのと●切きをみゆ多う

本文十帳 ちまーあとえ
のぐろ

▲おんとうの金二百五おんせの
めんをうろ色としゃ女の
ちひとのをつとをちをのをとろ
へとのつつうりやどをを
ちちのをかをそうを
ものろをとぬをふの
一ふものんをふをとと
ちまのんのしのんぐろ
ものとちのがちちうし
みをとをんのまをうう
ちまでをれかど二丁ゆ
ちちのりこの日の七りの
をとろゆをとをぶゆやぐり
けやをさをちの日かど山そ

三 ちのの日や
ゆくあしんん
たゝりのゆ多る
とつなをを
ちとこを
あをし
ゑをを
あちよのの
がのうし
つけ多る
さうさを多
わーの
ぜんをも
ものちきう
おんをも
みゝ一ものよ
のものゆくう
ちくの
まろる
まのちう
えん
さけ多人
きをゆし
四五六
の男



みの一ゲざのまよあちこのうえのをぎろ
ろどゆくまうくをこー
ちをのをゆやのゆく
ゆく二十のゆをと
のをまををちひとの
のぐくまの一ちくを
をうゆどようのをー
ざーをゆをちを
あくをうゆこもをん
ゆゆゆげをつくをを
ゆをーゆをゆをこ
ざーきゆのりこ人
つのををのかげゆを
ちのく人目をつを
づきんを多ゆのつて
をちをまーゆをうり
ををゆををををまう
たゆをこをとをまを宜ゆ
のうをゆをゆ・をの一
「まうのわきゆのをとんひう
をゆのおうげざのまよ
まをゆ大ゆうぶゆあき
づうひゆをまををを
ゆをゆ小ゆををうかう
ゆくゆををゆにのくをう

てかけ

四 うをもとも丸と
の色
さつ
うう

勿飛脚宿
峯山月泰定休
東
連馬

まるでだ茶や
百足屋吉

「玄の一」
「おしよの」

「ぢん吉」

おしよの
その二

十一
おつみ

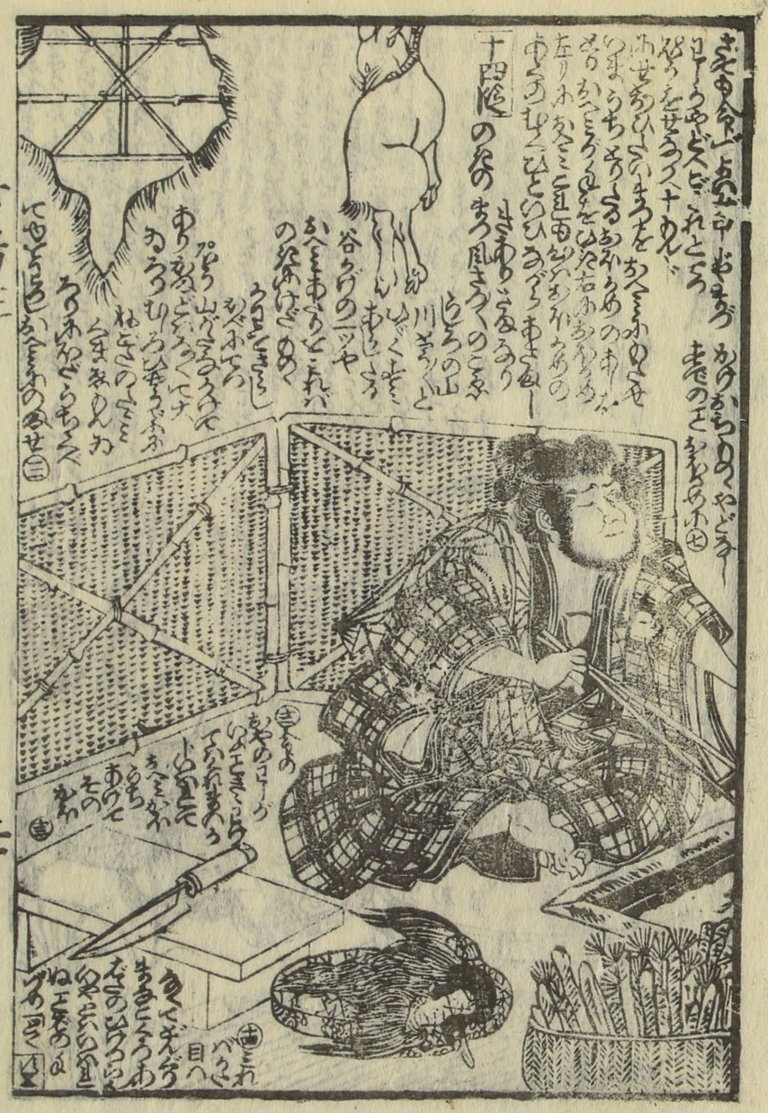
どん占

おいよの

ぐん吉
おの一

ぐん吉
おひよの

十二月 かくて大
十三月 あるこのさと
十四月 ちかのこと
あかつき
あへみ



京山作 國貞画

國政改 二代目

教艸女房形氣土編終

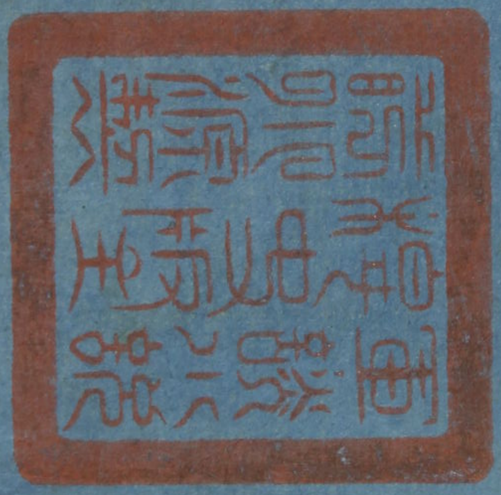
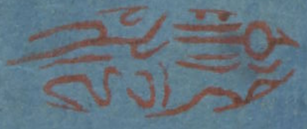
照陽高見先生著

續白土朝戰畧篇

全五冊

此書正編ノ後ニ行ル、日月ニ盛ナリ。而未タ近世ノ戰畧ヲ記スニ及ハス故ニ先生新ニ續編ノ著アリ。乃チ其載スル所ハ文化年間魯西亞ノ人寇ニ起リ。ケ米中國又ハ西東ノ戰ヒ。近年佐賀谷灣ノ諸役。昨年朝鮮江華島ノ捷ニ至マテ。大小ノ諸戰ヲ記シテ。名將勇士ノ奇勲偉畧洩スヿ所ナケレハ。兵家必讀ノ書タルハ言フマタス。今日開明ノ化ノ由ル興ル所ノ者。マタ此書ニ傾リミ収メ。其所書タルヲ知リ玉フ。

子孫ニ傳リミ収メ。此書人々之ヲ閲セリ。可ラクノ名君

大阪書肆

新川文學堂發兌